

## 第 7 号 卷 頭 言

広島国際大学心理科学部教職教室 主任 竹田 敏彦

カントは「人間とは教育されなければならない唯一の被造物である」と述べ、教育が「養育（養護・保育）」と「訓練（訓育）」および「人間形成をともなった知育」であることを明らかにしている。<sup>1</sup> カントは、ルソーが「消極教育」「早期教育の否定」を基本的な教育理念としたのに対して、「積極教育」「早期教育の必要」を主張しているように思われる。その根拠は、カントが、「子ども期にみずからの意志のままに気ままに生活することが許されて、しかもその時にいかなる抵抗にもあわなかったとすれば、人間はその全生涯を通じてある種の野性的な粗暴さを持ち続けるであろう」ことや、「人間はその〔子ども期の〕早い時期から理性の指示にしたがうことに慣らされなければならない」こと、「子ども期に母親の過剰な愛情で大事にされすぎることは、同じようにその人間のためにはならない」ことを述べていることによく表れている。<sup>2</sup>

またカントは「人間は教育によってはじめて人間になることができる」こと、「人間は人間によってのみ教育される」こと、「教育を受けた人間によってのみ教育される」ことを指摘している。<sup>3</sup> このことに関連して、カントは、「自己自身を改善すること、自己自身を教化すること、そしてみずからが〔道徳的に〕悪である場合には自己自身で道徳性を身に付けるようにするということが人間の行うべき義務であることを主張した。<sup>4</sup> この義務は、当然のこととして教師に求められることでもある。カントのこの道徳的教化の考え方は、「何が善で何が悪であるのかに関する概念」を「あらかじめ早くから子どもに教え込むようにしたほうがよい」ということによく表れている。カントはその上で、「道徳性を確立しようとするならば、〔子どもを〕罰するようなことは行ってはならない」と述べ、その根拠に「道徳性はとても神聖で崇高なもの」であることや、道徳的教育の第一の努力事項に「品性の確立」を挙げた。<sup>5</sup>

さらにカントは、人間は本来的に道徳的に善であるのか否かについては、そのどちらでもない」と述べ、その理由に、「人間は本来的には決して道徳的存在者ではなく、その理性が義務概念および法概念にまで到達する場合にだけ、道徳的存在者になる」ことを挙げている。<sup>6</sup> このことから教師は、道徳的存在者としての行為（道徳的善の行為）を選択できるように努める責務があるといえる。

広島国際大学の教職課程を履修している学生たちは、教育実習Ⅰ→教育実習Ⅱ→教育実習Ⅲ→教職実践演習のプロセスにおいて、大学での模擬授業やロールプレイング、中学校・高等学校で

<sup>1</sup> カント（著）、湯浅正彦・井上義彦・加藤泰史（訳）『カント全集 17 論理学・教育学』岩波書店 2001 p. 217 から抜粋

<sup>2</sup> 上掲書 p. 219 から抜粋

<sup>3</sup> 上掲書 p. 221 から抜粋

<sup>4</sup> 上掲書 p. 226

<sup>5</sup> 上掲書 p. 284 から抜粋

<sup>6</sup> 上掲書 p. 304

の教育実習等を通して大きく成長している。学生たちは教職に就くことを夢見て、教師力アップのための磨きをかけているのである。カントのいう「教育とは、教師とは」の答えを追求する日々であるといってもよい。

広島国際大学の教職課程は現在、心理科学部(中学校「社会」「英語」、高等学校「公民」「英語」)、総合リハビリテーション学部(高等学校「工業」)、工学部(高等学校「工業」)、医療栄養学部(「栄養」)において履修が可能である。しかし、現2年生を最後に、心理科学部、総合リハビリテーション学部において、教職課程がなくなる。工学部においては、現4年生が最後となる。教職課程が残るのは、医療栄養学部のみとなる。

このような中、教職教室のスタッフは、一人でも多くの学生を教員採用試験の合格及び国立大学法人の教育系大学院への進学を実現させるべく鋭意努力している。

昨年度(2014年度)の本学心理科学部卒業生(教職課程履修者26名)は、広島県公立学校教員採用試験(中学校社会科)に合格(1人)、兵庫教育大学大学院(4人)、鳴門教育大学大学院(2人)、愛媛大学大学院(1人)、奈良女子大学大学院(1人)、帝塚山学院大学大学院(1人)、広島国際大学大学院(3人)に合格を決めるなどの成果を上げた。また、今年度(2015年度)の本学心理科学部現4年生(教職課程履修者16名)も、学校法人山口精華学園精華高等学校に採用(1人)、兵庫教育大学大学院(4人)、鳴門教育大学大学院(3人)、山口大学大学院(1人)、広島国際大学大学院(1人)に合格を決めるなどの成果を上げている。

末筆ではあるが、本教育論叢第7号発刊に当たり、ご寄稿いただいた教職課程に関係する教職員及び学生の皆様に衷心より御礼申し上げます。